

## ヘラサギ *Platalea leucorodia* 2006年 福井県内で初記録

柳町 邦光<sup>1</sup>

### はじめに

ヘラサギ *Platalea leucorodia* はユーラシア大陸の中東からモンゴル・中国東北部・インドにかけて繁殖分布し、冬はアフリカ北部・ペルシャ湾岸・インド・中国南部に渡って越冬する。日本には少数がごく希な冬鳥として各地に記録があり、鹿児島県出水市にはしばしば渡来している。北陸近辺では新潟、石川、京都などでも確認されている。越冬地では、湖沼や河川の沿岸の湿地、水田、河口の入江などに飛来し、浅い水の中をゆっくり歩き、嘴を左右に振りながら採餌する (中村・中村 1995)。

ヘラサギは、全身が白く、嘴はへら状の長くて黒く先端は橙色で、後頭部には冠羽が出る。幼鳥の場合は、嘴はピンク味がかった黒色で、冠羽もほとんど目立たない (高野 1980)。福井県における鳥類目録は「福井の鳥とけものたち」(1998. 福井県) に計18目63科317種が掲載されているが、本種は掲載されていない。2006年5月12日、鈴川文夫氏が坂井市三国町川崎の水田で本種1羽を確認し、福井県内で初記録となったので報告する。本種は、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 2, 鳥類」(2002. 環境省) で情報不足 (DD) に分類指定されている。

### 確 認

ヘラサギが確認された日時は、2006年5月12日午前10時ごろで、天候は晴れであった。場所は、坂井市三国町川崎地系の九頭竜川右岸河川敷にある河口から約2.5km、面積約2haの水田域内 (36°12' N, 136°09' E, 海拔約1m) であった。水田としては九頭竜川の最も下流域に位置しており、河川側はヨシ *Phragmites communis* 等が繁茂している水辺環境

であった。この時期は、周辺の水田では田植えの最中であったが、本種が採餌していた水田は田植え前の冠水されている状態だった。

福井県の沿岸地域には干潟・干拓地は殆んど無いが、春秋の渡り時期には河口域から沿岸周辺の水田地帯に多くのシギ・チドリ類が渡来し、良い休息場・中継地となっている。この2~3年間に観察された主な種は、チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*, アオアシシギ *Tringa nebulalia*, タカブシギ *Tringa glareola*, イソシギ *Actitis hypoleucos*, タシギ *Gallinago gallinago*, オグロシギ *Limosa limosa*, オオソリハシギ *Limosa lapponica*, トウネン *Calidris ruficollis*, ハマシギ *Calidris alpina*, ツルシギ *Tringa erythropus*, タゲリ *Vanellus vanellus*, コチドリ *Charadrius dubius*, セイタカシギ *Himantopus himantopus*, ユリカモメ *Larus ridibundus*, ズグロカモメ *Larus saundersi*, カルガモ *Anas poecilorhyncha*, アマサギ *Bubulcus ibis*, アオサギ *Ardea cinerea*, コサギ *Egretta garzetta*, チュウサギ *Egretta intermedia*, ダイサギ *Egretta alba* 等であった。今回確認されたヘラサギは、このような水辺・湿地環境を好むことから、迷行と思われるが、飛来したものと考えられる。

5月12日に本個体が確認されたが、14日13:30ごろにこの水田で同じと思われる個体を筆者も確認した。確認時当初は嘴を背の羽毛の中へ入れ、片足で水田に立っている状態で休息していたが、時々水田でゆっくり歩いて採餌もしていた。近くにはアオサギ、ダイサギ、コサギ等も採餌しており、これらとともに比較的警戒心も強くないと思われた。白い顔に目先から嘴にかけて細い青白色の皮膚が裸出していること。嘴はへら状で黒く先端1/3の部分はピンク味の

1. 柳町邦光 〒918-8046 福井市運動公園1-2703 (財)日本野鳥の会福井県支部 支部長

ある黄褐色であった。嘴の付け根部分には黄褐色が混じっていた。採餌の時は、嘴を水面に突っ込み、首を左右に振りながら嘴をかみ合わせる仕草が見られた。また飛翔時はこの水田の上空を旋回し、約2分後に同じ水田に舞い降りたが、首を伸ばした状態で飛翔し、初列および次列風切の先端に黒い部分が確認された。これらのことからヘラサギの若個体と断定した(高野 1980)。15日以降は確認されていない。初認情報を頂いた鈴木文夫氏にはここに記して感謝する。

繁殖期であり渡り時期と重なったとは言え、迷行してきたものと思われるが、今後冬期間の水田や休耕田を湛水化するなどして、湿地環境の確保と保全

が必要であろう。

#### 引用文献

- 高野伸二. 1980. 野鳥識別ハンドブック. 61pp.  
(財)日本野鳥の会.  
中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑  
水鳥編 . 190pp, 201pp. 保育社.  
福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会 (編).1998.  
福井の鳥とけものたち. 222pp. 福井県.  
環境省自然環境局野生生物課 (編). 2002. 改訂・  
日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッド  
データブック - 2 鳥類. 237pp. (財)自然環境  
研究センター



写真1. ヘラサギ (2006.05.14, 三国町川崎 九頭竜川河川敷)で撮影.



写真2. ヘラサギ (2006.05.14, 三国町川崎 九頭竜川河川敷)で撮影.

First record of white spoonbill, *Platalea leucorodia*, in Fukui prefecture, 2006

Kunimitsu YANAGIMACHI<sup>1</sup>

One white spoonbill, *Platalea leucorodia*, was observed at a rice field (36 ° 12 N, 136 ° 09 E, altitude about 1 m) on the side of the Kuzuryu River in Mikuni town, Sakai city, Fukui prefecture, on 12 and 14 May 2006. It is the first record of the species in Fukui prefecture.

1. Undokoen 1-2703, Fukui city, Fukui 918-8046